

同 推 くん

2003年11月20日第19号

編集・発行

海蔵地区人権・教育推進協議会

第12回「人権を考える集い」は、去る10月25日（土）午後1時30分から午後3時まで海蔵小学校体育館で開催しました。集会は、講師に姜春根さんをお迎えし、「在日韓国・朝鮮人の人たちの人権」と題して講演をしていただきました。当日は約100名の方が参加され熱心に聴いていただきました。ご講演のあらまは次のとおりです。

<講演要旨>

私は、在日韓国人ですがここにおいで皆さん方の大部分は在日日本人です。こういう分け方から私どもはまず分けます。また、目上に対する発想の違いがあります。いわゆるウチ・ソト関係なく目上は目上として処遇します。たとえば日本人の方は、自分の会社の社長を紹介するとき「うちの社長は・・・」と言いますが、私どもは「うちの社長様は・・・」となります。

また、朝鮮民族は男系社会で、男性の家系を大切にします。したがって、日本の場合、結婚すると（法的にはどちらの姓を名乗ってもいいようですが）大抵の場合、女性は男性側の姓にされているようですが、私どもの場合は、女性の姓は変わりません。私の姓は「姜」ですが、妻の場合は「趙（チョ）順子（スンジャ）」で「姜順子」ではありません。

私は、日本で生まれ育ってきたわけですが、私自身の民族意識は、在日韓国人と在日日本人と区別して民族の違い（外国人であること）を自覚することからすべてはじまっていることをまずご理解いただきたいと思います。

私は名古屋市の中村区で生まれ日本の教育体系で育ちました。中学校は中村区にある黄金中学校でした。14歳を超えた中学2年生のときだったと思いますが、ある日突然担任の先生に呼び出され、「お前、ちょっと区役所へ行って来いよ」といって授業中に特別に校外へ行けることになりました。用件は事前に父から聞かされていたことでしたから、知っていました。歩いて15分くらいのところにある区役所に向かいますと、当時は建物の一番奥の薄暗いところで外国人登録課がありました。そこで両手全部の指紋を採られました。（当時は墨のようなもので）

そこで生まれて初めて外国人登録証登録済証明書というものが渡されました。自分は犯罪者でもないのに「なぜ」というなんとも言えない「やるせなさ」が私の心に残りました。14歳という少年がついさっきまで学友と何の隔たりやわだかまりもなく同じ星に住み遊び学んで

いたと思っていた自分が、なぜ違う星の世界の人間に思われてきて、とぼとぼと学校に戻った記憶が今でも鮮明に残っています。この気持ちは素直に親に話すことはできませんでしたが、母親も何も言いませんでしたが、どこか私をいたわるような気持ちをあらわす態度をとってくれたような記憶があります。

私たちにに対する「差別」と「偏見」は、「就職」と「恋愛（結婚）」で如実にあらわれます。高校は某私立高校を希望したのですが担任が言いにくそうに「その学校はあきらめろ」と「東邦といういい学校がある。家からも近いし」と東邦高校を受けることを勧められました。東邦高校は民族などには全然こだわらない自由な雰囲気のある学校でした。なかでもキム・ダルス（金達寿）の「玄海」という小説やホ・ナムギ（許南麒）の長編叙事詩「火網銃の詩」を紹介してくださった石井先生には大変感謝し今でも人生の師と仰いでいます。このことが私に民族の芽生えを与えてくださったし、また、私自身が詩人としてのあゆみのきっかけを与えてくださった方です。実は、私はペンネーム「恩海（サヘ）・姜 思海（カン・サヘ）」でこれまでに詩集を第三集まで出しております。

大学は、入学条件が比較的に開放的な日大農学部に入りました。日本で学んだ技術を祖国に持ち帰り活かしたいという希望があったので、農業化学を専攻し大学院へ進んだ。ものすごく勉強し卒業が近づいたある日、主任教授から「論文は立派だ。研究成果については保証する。しかし、（君は国籍が違うので）就職については保障できない。」と言われた。この言葉を聞いたとき、「それはないよ」と思いました。なぜ、こんなに努力したのに「国籍が違う」ということだけでみんなと同じスタート台に立てないのか、たとえ現実がそうであったとしても主任教授の口からせめて「就職斡旋に精一杯努力したが、無理だった。申し訳けない。」の一言がなぜ発せられなかったのか。そのような姿勢の主任教授に対して「恨み」から「何かしでかさないと我慢できない」という衝動に駆られてしまい、それを何とか抑えようと、それまでアルコールは一滴も飲まなかった私がウイスキーを1本ガブ飲みして、人生ではじめて二日酔いの苦しさを体験するはめになってしまいました。（東邦高校の石井先生とは天と地の違いがあると思いました。）

「差別」は「区別」とは違う。「区別」は現実をより分けるだけであるが、「差別」は人間のやさしさがなくなってしまう姿なのです。教え子が、いくら努力しても同じスタート台に立てない現実のありようを、人間として愛情のひとかけられなく認めて処してしまう、これは明らかに「差別」の結果だといえるのではないのでしょうか。

「差別」は、「恋愛」と「就職」に現れると言いましたが、「恋愛」にからんで「兄の恋愛」について少し触れてみます。高校時代の「兄」は実に美男子でスポーツマンでしたので、女子高生に人気があったようです。当時、名古屋市内の某有名女子高校の彼女と友だち付き合いをして

いました。彼女は一宮の織物業の娘さんでした。兄はボーリングに凝って大学を滑ってしまいましたが、彼女は高校を順調に卒業し年頃になってきたので、ある日、兄は彼女の家を訪れ、交際を認めるよう申し出たそうです。ところが、彼女の父親は「君とは、歩く道が違う。今後付き合わないよう」といい民族の違いを理由に交際を断られてしまったのです。それを兄から聞いた私は、当時、(日大の主任教授のこともあって)民族意識が大変燃えていたので「日本人から、朝鮮出身だからとか、どこの馬の骨ともわからぬとか言われる筋合いはない。それは日本人に言うことばだ。朝鮮の場合家系は大事にされており、「族譜」が各家にあり「姜」家は古までさかのぼれる名家だ。ばかにするな。」と自分が代わりに行って抗議すると意気込んだが止められてしまったことがありました。現在では、このような封建的な考え方は持ていません。

「就職」について触れてみますと、自分の先輩で東大を金時計を貰って卒業したが希望のところに就職できず大阪の鉄工所で工員として働いていて左手の指先二本を切り落とす事故を起こしたりして、失意の果てに北へ行った(現在は消息不明)人がいます。

私は、大学を中退したこともあって就職できないと思っていたし、化学の知識もあるので薬剤師を雇い薬屋でもやろうと思ひ、適当な店舗を探すため市内の西区や瑞穂区の不動産屋をまわったが、最後になると「私は良いんだが、家主さんがだめだというので」ということで全然貸してくれませんでした。アパートの借り入れも「本名」だと全くだめで結局6箇所も断られ、友人の紹介でやっと借りられることができたということもありました。

これも明らかに「差別」だと思うんです。「差別」する人は、「差別」しないと「上に立てない」と思っている人だと思います。自分に自信がないから「差別」をしないと安心できないのだと思います。相手を「差別」でもって叩きつけないと自分が幸せにならないと思っているのだと思います。よく「同じ人間じゃないか差別なんかしてないよ」と言う人がいます。大概の人は、甘いことばで誤魔化しているのではないのでしょうか。民族差別について申しますと、相手の民族の文化を否定したり侮辱することは絶対にいけないことだと思います。他民族を蔑称で呼ぶことは許されないことだと思います。朝鮮人は日本人を隠語で「チョッパリ」と言いました。日本人は下駄をはきます。足の指を2つにわけることを意味しています。日本生まれに韓国・朝鮮人を祖国では「半チョッパリ」と呼ぶことがあります。

フランスの女優ブリジット・バルドーは、「朝鮮人は犬を食べるから野蛮人だ」と朝鮮人を侮蔑しました。朝鮮人が「犬」を食べるのは寒さ対策のための食料として育成された「食用犬」を食べるのです。果たして、「牛」や「豚」を食べることが文化人で「犬」を食べるのは野蛮人だと言い切れるのでしょうか。イスラムの人々は「豚」は食べません。日本人は「鯨」を

食べます。これは、「食文化」という民族の「文化」であり、それを一方的な主観で判断し他民族を侮蔑することは許されないことだと思います。かつて「ニンニク」は「くさい」といって軽蔑されました。フランス料理の「ガーリック」が「ニンニク」のことだということがわかり、今では若い人たちは全くといっていいほど気にしなくなりました。(「キムチ」がいい例だと思います。)若い人たちの朝鮮民族やアジアの人たちを見る目は明らかに変わってきています。韓国出身の芸能人グループを追って何千人という若者が渡韓する姿はこれまでにはなかったことです。私は、以前、日本に生まれて何も良いことはないと思っていましたが、今は変わっています。出会いを大切にしてお互いに理解しあうことが、民族の壁を打ち破る力になっていくと思います。

そのためにも、民族の文化や歴史などを学習することによって正しい「知識」を習得し、それを「知性」として身につけて欲しいと思います。例えば、私たち夫婦が、私が姜春根であるのになぜ妻が姜順子でなくて趙順子であるのかを、正しく理解し「区別」できる人間になって欲しいのです。

「民族差別」がなくなる時代は必ず来ると思っています。私は、在日韓国人であり、ある種のダブルであり、双方の文化を良く知っています。この立場を活かして自分なりの努力をかさねています。「民族」同士がお互いに努力することによって必ずいい関係はできあがると信じています。皆さん方も、学習の積み重ねによってしっかりと「哲学」を身につけ、「区別」と「差別」の違いがわかる人間になって欲しいと思います。

長時間、御清聴ありがとうございました。(拍手)

[文責 広報部]

お礼のことば

当日は、連合自治会をはじめ同推協委員の皆様、地域団体代表の皆様、学校関係者など多数の皆様のご支援をいただき、お陰をもちまして盛会に開催することができましたことに対し、役員一同心より御礼申し上げます。今後とも同推協活動に、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

海蔵地区人権・同和教育推進協議会

役員一同

